



足立区

足立区
男女共同参画に関する区民意識調査
報告書
【概要版】

【調査期間：令和3年10月20日（水）～11月19日（金）】

令和4年3月

足立区

地域のちから推進部 多様性社会推進課

目次

第1章 調査の概要	3
1 調査実施の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査方法と回収状況	3
4 調査項目	3
5 調査結果を見る上での注意事項	3
6 調査結果の概要	4
第2章 調査結果の詳細	6
1 あらゆる分野における女性活躍の推進	6
（1）女性の理想的な働き方	6
（2）理想（好ましい）の働き方と考える理由	8
（3）結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと	9
2 ワーク・ライフ・バランスの推進	10
（1）「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度	10
（2）区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みの周知状況	12
（3）働く際に重要視すること	13
（4）現実と理想の家事、行事参加等の役割分担	14
（5）配偶者（またはパートナー）への不満点	18
（6）配偶者（またはパートナー）との役割分担状況の満足度	19
（7）配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うこと	20
3 社会における男女共同参画の推進	21
（1）分野別にみた男女の地位の平等感	21
（2）女性活躍推進のために特に区に期待すること	26
（3）性別にとらわれない防災対策や避難所の運営で特に重要だと思うこと	27
（4）男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れるべきこと	28
4 DV・ハラスメントの防止対策	29
（1）DV・ハラスメント行為の被害経験	29
（2）DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先	30
（3）DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこと	33
5 多様性の尊重と人権	34
（1）LGBTの認知度	34
（2）周囲のLGBT等当事者	35
（3）LGBT等であることを打ち明けられた時の対応	36
（4）LGBT等当事者が暮らしやすい社会づくりのために特に必要だと思うこと	39
（5）性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験の有無	40
（6）いじめを受けたり、見聞きした場面	41
（7）女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、大切だと思うこと	42
（8）生理用品の購入ができず困った経験	43
6 基本属性	44
（1）性別	44
（2）年齢	44
（3）婚姻状況	45
（4）共働きの有無	45

第1章 調査の概要

1 調査実施の目的

本調査は、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランス推進、DV・ハラスメントの防止対策、多様な生き方に対する相互理解などについて、区民の意識や実態を把握し、「第8次男女共同参画行動計画（仮）」（令和4年度策定予定）の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の対象

調査名	調査対象
足立区男女共同参画に関する区民意識調査	18歳以上79歳以下の区民3,000名

3 調査方法と回収状況

調査方法：郵送とインターネットによるアンケート調査

調査期間：令和3年10月20日（水）～11月19日（金）

※隔年で調査を実施。調査項目については、社会の状況に合わせ変化を加えています。

〈回収状況〉

発送数	回収数		回収率
3,000件	1,136件	(内訳) 郵送：666件 WEB：470件	37.9% (22.2%) (15.7%)

4 調査項目

- (1) あらゆる分野における女性活躍の推進
- (2) ワーク・ライフ・バランスの推進
- (3) 社会における男女共同参画の推進
- (4) DV・ハラスメントの防止対策
- (5) 多様性の尊重と人権

5 調査結果を見る上での注意事項

- (1) 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- (2) 百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 本文、図表は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- (5) 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

6 調査結果の概要

(1) あらゆる分野における女性活躍の推進

女性が仕事を持つことについて、9割弱の人が肯定しています。特に、「結婚し子どもを持つが、仕事も出来る限り続ける」という就労継続型が5割強と最も多くなっています。

また、結婚・出産を機に退職した女性の再就職については、「保育園・学童保育等の保育施設の充実が必要である」という回答が最も多く、女性が仕事と出産・育児等の両立に向けた環境づくりを進めることが求められています。

(2) ワーク・ライフ・バランスの推進

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度は年々増加し、特に女性の認知度が高まっています。しかし、区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みについては、周知されていると感じている回答者が1割台半ばに留まり、一層の周知活動が必要です。

家庭内における役割分担については、自身とパートナーで分担することが理想としており、固定的な性別役割分担意識を解消していく必要があります。

また、配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うことは、「夫婦でよく話し合い協力する」が男女ともにすべての年代で6割～7割と最も多くなっています。

(3) 社会における男女共同参画の推進

男女の地位の平等感については、男性が優遇されているという回答が多く、特に「政治の場」では8割強、「社会全体」では、約7割が男性優遇だと感じている一方、「学校教育」では、平等であるという回答が最も多く、特に学校教育では平等と感じる人が6割台半ばを超えています。

女性活躍推進のために特に区に期待することとして、「子育て環境を整備する」に次いで、「女性の再就職支援を行う」が男女ともに4割を超えており、一度離職しても再び仕事をもつことができるように支援していく必要があります。

男女共同参画の推進に向けて、学校教育の場で力を入れるべきこととしては、「男女の別なく個性や能力を活かせる指導の充実」が男女ともに第1位となっており、学齢期からの意識啓発が必要です。

(4) DV・ハラスメントの防止対策

DV・ハラスメント行為を受けた経験については、男女ともにどの年代でも人格否定等の精神的攻撃が多くなっています。

DV・被害を受けた際の相談先は、身近の友人や親族、職場が多くなっている一方、被害を受けた際、「相談しても無駄だと思った」「自分が我慢すれば何とかかなと思った」が上位2項目にあげられており、他人に相談することがいかに重要であるかを周知していくことが必要となっています。

また、DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきことについて、「家庭内でも暴力は犯罪という意識の啓発」が男女ともにほぼすべての年代で第1位となっており、DVを未然に防ぐ啓発が必要であることが分かります。

(5) 多様性の尊重と人権

「言葉を聞いたことがある」を含めたLGBTの認知度は8割台半ばを占めており、LGBTという言葉に対する知識が高いものとなっています。

LGBT等であることを打ち明けられた時の対応としては、「理解する」「悩みを聞く」「今まで通りの距離感で接する」といった肯定意見が6～7割を占めますが、一方で「わからない」という回答も2割前後となっています。

LGBT当事者が暮らしやすい社会になるために必要なこととしては、「周囲の人の理解や偏見差別の解消」「社会制度の見直しや差別の解消」が男女ともに第1位となっています。

性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験は、男女ともに「ない（わからない含む）」という回答が約8割を占める一方、「ある」と回答したほぼすべての年代で「その現場が学校である」が第1位となっており、教育現場での啓発が必要となっています。

生理用品の購入ができず困った経験については、「ナプキンを交換せずに使用を続けたり、トイレットペーパー等で代用せざるを得なかった」等の経験をしている人が、1割前後となっています。

第2章 調査結果の詳細

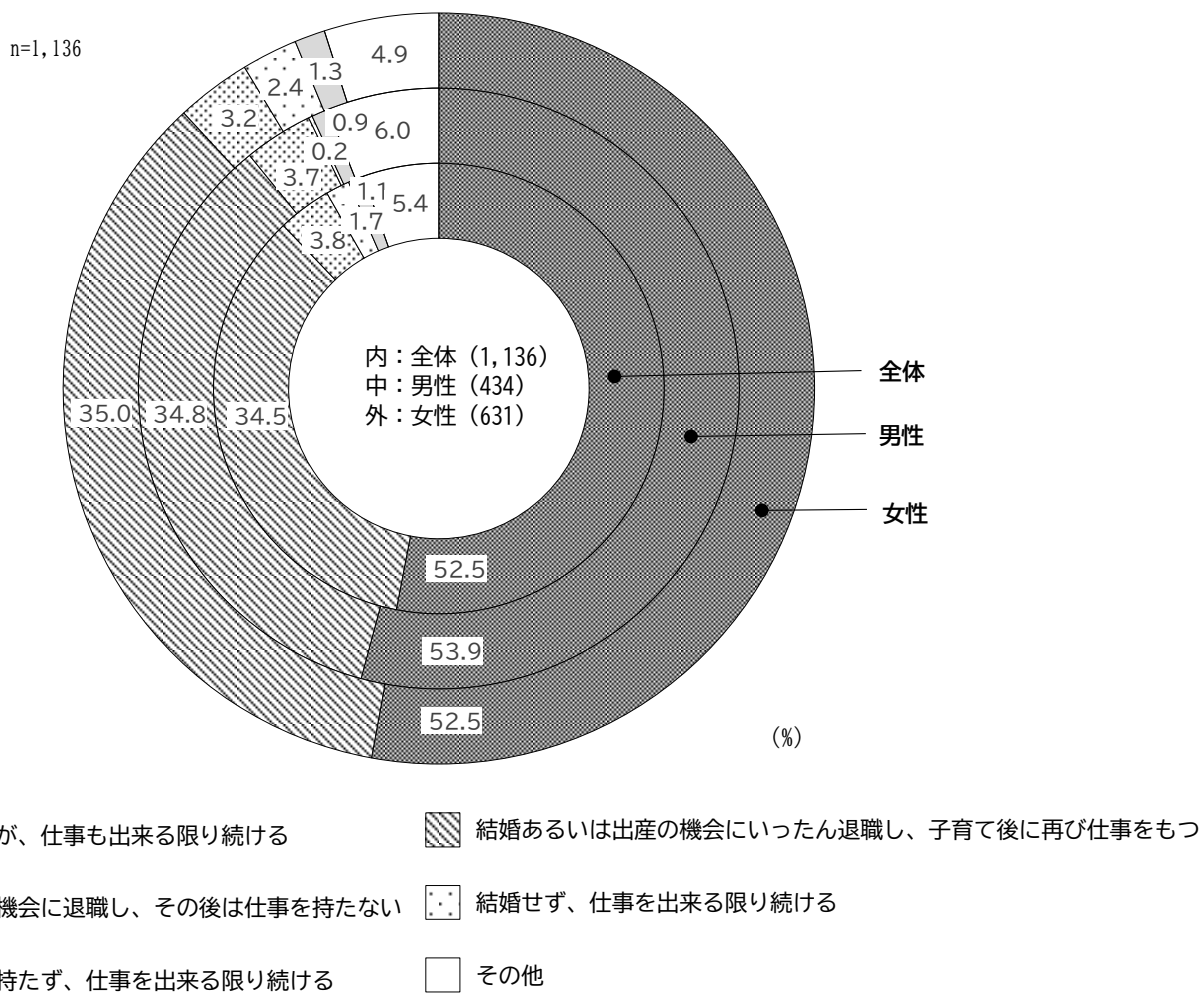
1 あらゆる分野における女性活躍の推進

(1) 女性の理想的な働き方

- 就労継続型を希望する人は過半数、中断再就職型は3割台半ばと女性が仕事を続けることに9割弱が肯定

問1 女性の働き方について伺います。女性の働き方あなたが理想（好ましい）と考えるものをお答えください（○は1つ）。

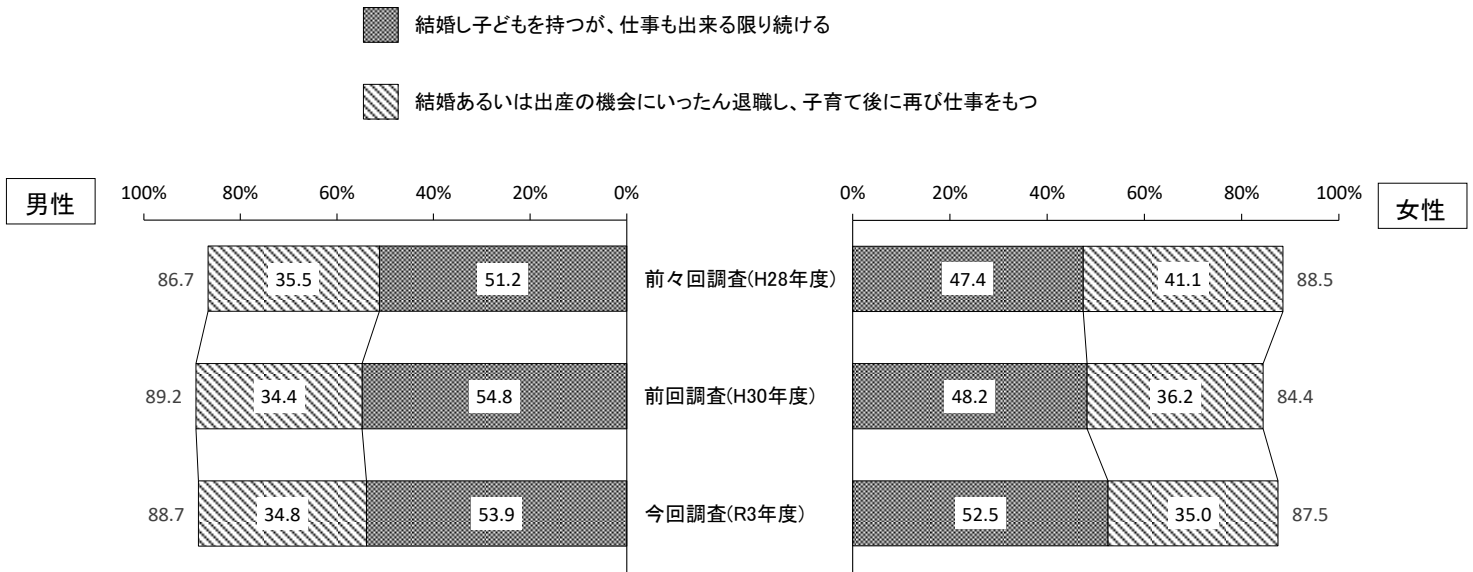
図表 女性の理想的な働き方（性別・年代別）



女性の理想的な働き方については、「結婚し子どもを持つが、仕事も出来る限り続ける」（以下、「就労継続型」）という回答者（52.5%）が過半数で、次いで「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」（以下、「中断再就職型」）が34.5%である。

性別でみると、理想的な働き方について傾向の差はみられない。

図表 女性の理想的な働き方（経年比較）



性別で見ると、男性は前回調査から大きな差はみられないが、一方、女性では「就労継続型」（今回52.5%、前回48.2%）が4.3ポイント増加している。

(2) 理想（好ましい）の働き方と考える理由

- 男性は「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」が、女性では「仕事を通じて社会や人とのつながりを持てる」が最多

問2 あなたが、女性の働き方について問1の回答のようにお考えになるのは、なぜですか（〇はいくつでも）。

図表 理想（好ましい）の働き方と考える理由（性別）

男性 上位5項目		女性 上位5項目		(%)
夫婦で働く方が、経済的に安定するから	53.2	仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから	65.3	
仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから	51.4	女性も経済力を持った方がいいと思うから	56.3	
女性も経済力を持った方がいいと思うから	43.3	夫婦で働く方が、経済的に安定するから	52.0	
女性の能力を活用できるから	43.3	女性の能力を活用できるから	31.9	
少子高齢化による労働力不足を補えるから	19.6	子どもは、母親が家で面倒を見た方がいいから	16.6	

性別で見ると、女性では、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が65.3%と第1位にあげられ、第2位の「女性も経済力を持った方がいいと思うから」は56.3%と、それぞれ男性を13ポイント以上上回り、自己実現のための就業を望む回答が多くなっている。一方、男性では、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」（53.2%）が第1位となっており、家庭における経済的安定を理由とする回答が多い。次いで、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」（51.4%）が約5割、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」と「女性の能力を活用できるから」（共に43.3%）が4割強である。

(3) 結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと

■ 「保育園、学童保育等の保育施設の充実」が最多

問4 結婚、出産などにより退職後、就業への一歩を踏み出せなかったりするなど再就職が難しい場合があります。結婚、出産などの理由により仕事を辞めた女性が再就職する場合、どのようなことが特に必要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと（性別）

男性 上位5項目		女性 上位5項目		(%)
保育園、学童保育などの保育施設の充実	64.3	保育園、学童保育などの保育施設の充実	59.4	
労働条件の改善	39.9	家族の理解と協力	41.0	
企業における再就職制度の整備や充実	38.7	労働条件の改善	39.8	
家族の理解と協力	36.2	男性の積極的な家事・育児の参加	37.7	
男性の積極的な家事・育児の参加	31.6	企業における再就職制度の整備や充実	29.3	

性別で見ると、男女とも「保育園、学童保育などの保育施設の充実」（男性64.3%、女性59.4%）を第1位にあげている。第2位は、男性は「労働条件の改善」（39.9%）、女性は「家族の理解と協力」（41.0%）をあげている。

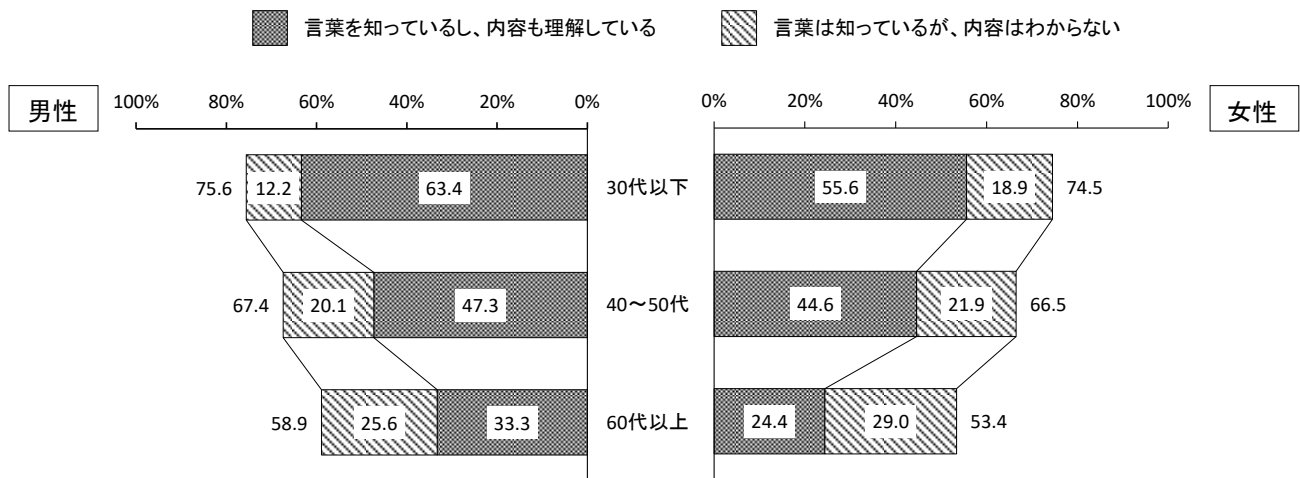
2 ワーク・ライフ・バランスの推進

(1) 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度

■ 「言葉を知り内容も理解している」人は4割強、「言葉を知らない」人は3割台半ば

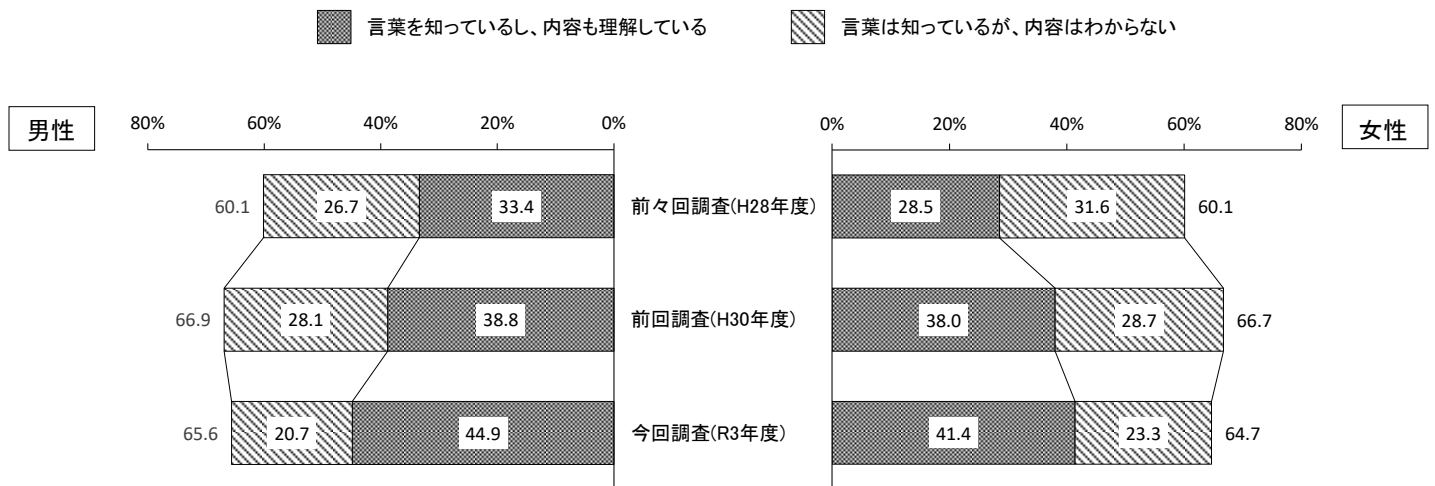
問5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、「仕事」と「仕事以外の生活（子育てや介護、地域活動等）」の両方のバランスがとれている状態のことを言います。あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉とその意味を知っていますか（○は1つ）。

図表 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度（性別・年代別）



性別・年代別でみると、「言葉を知っているし、内容も理解している」という回答者は、男女とも30代以下（男性63.4%、女性55.6%）で最も多く、年代が低くなるほど多い傾向がある。

図表 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度（経年比較）



性別で見ると、男性では「言葉を知っているし、内容も理解している」（今回44.9%、前回38.8%）は6.1ポイント増加している。女性（今回41.4%、前回38.0%）では3.4ポイント増加している。

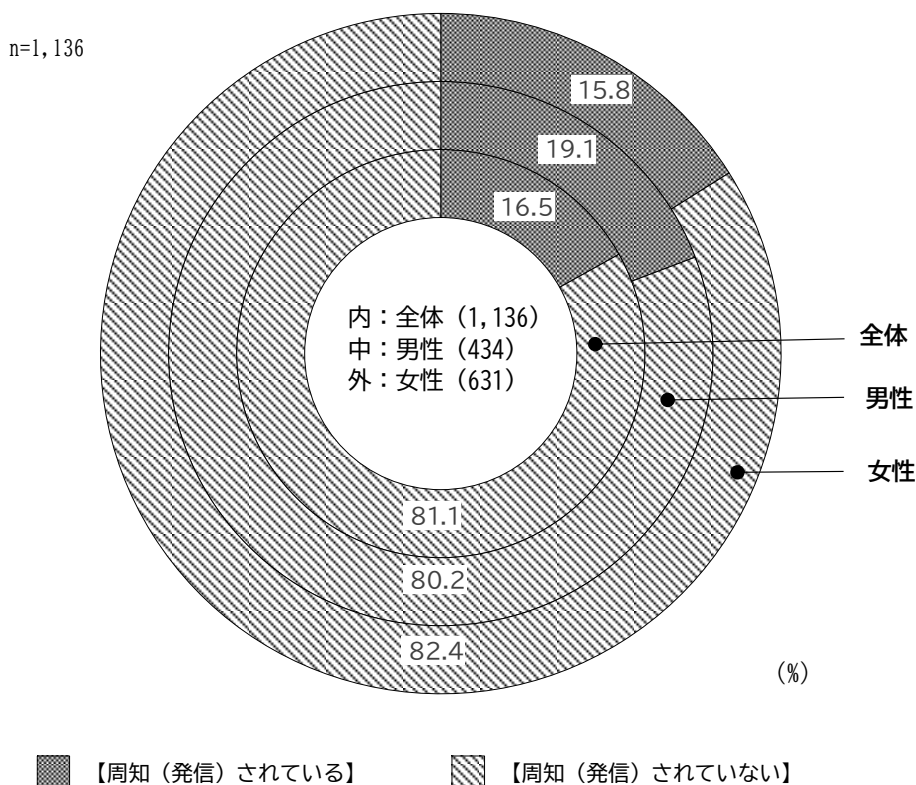
前々回調査から比較すると、「言葉を知っているし、内容も理解している」は女性の認知度が高まっている。

(2) 区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みの周知状況

- 「周知されている」と感じる人は1割台半ばにとどまり、「周知されていない」が約8割

問6 足立区では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するため、啓発リーフレットの配布や区内企業に対するセミナー開催のお知らせ、また、ホームページでも取組み内容を紹介しています。あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて、区から情報の周知（発信）がされていると思いますか（○は1つ）。

図表 区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みの周知状況（性別）



※【周知（発信）されている】は「十分周知（発信）されている」と「周知（発信）されているが十分ではない」の合計
 ※【周知（発信）されていない】は「あまり周知（発信）されていない」を含む

足立区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みが「十分周知（発信）されている」と感じる回答者は1.9%にとどまり、「周知（発信）されているが十分ではない」（14.6%）を含めた【周知（発信）されている】回答者（16.5%）は1割台半ばとなっている。これに対して、「周知（発信）されていない」と評価をする回答者は31.1%で、「あまり周知（発信）されていない」（50.0%）を含めた【周知（発信）されていない】（81.1%）回答者が約8割を占めている。

性別でみると、「周知（発信）されているが十分ではない」を含めた【周知（発信）されている】（男性19.1%、女性15.8%）と感じている回答者は男性が女性よりやや多い。「あまり周知（発信）されていない」を含めた【周知（発信）されていない】（男性80.2%、女性82.4%）という回答者は、女性がやや多い。

(3) 働く際に重要視すること

- 男性50代以下は「給料のよさ」、女性50代以下は「休暇の取得しやすさ」、男女ともに60代以上は「仕事のやりがい」が最多

問8 あなたが働くうえで、特に重要視することは何ですか（○は3つまで）。

図表 働く際に重要視すること（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
給料がよい	68.3	休暇がとりやすい	65.7
休暇がとりやすい	42.7	給料がよい	50.3
仕事のやりがいがある	41.5	残業がない、少ない	45.0
福利厚生制度が充実している	30.5	福利厚生制度が充実している	42.6
残業がない、少ない	28.0	仕事のやりがいがある	32.5
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
給料がよい	66.3	休暇がとりやすい	57.6
仕事のやりがいがある	51.6	給料がよい	50.2
休暇がとりやすい	41.3	仕事のやりがいがある	49.1
能力を発揮できる	32.6	残業がない、少ない	32.0
福利厚生制度が充実している	28.3	福利厚生制度が充実している	26.8
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
仕事のやりがいがある	61.3	仕事のやりがいがある	60.1
給料がよい	47.6	休暇がとりやすい	45.1
福利厚生制度が充実している	38.1	福利厚生制度が充実している	39.4
能力を発揮できる	31.5	給料がよい	36.8
休暇がとりやすい	30.4	残業がない、少ない	22.3

性別・年代別で見ると、男性では「給料がよい」が50代までで最も多くなっている。一方、女性では「休暇がとりやすい」が50代までで最も多くなっている。男女ともに60代以上では「仕事のやりがいがある」が約6割と最も多くなっている。

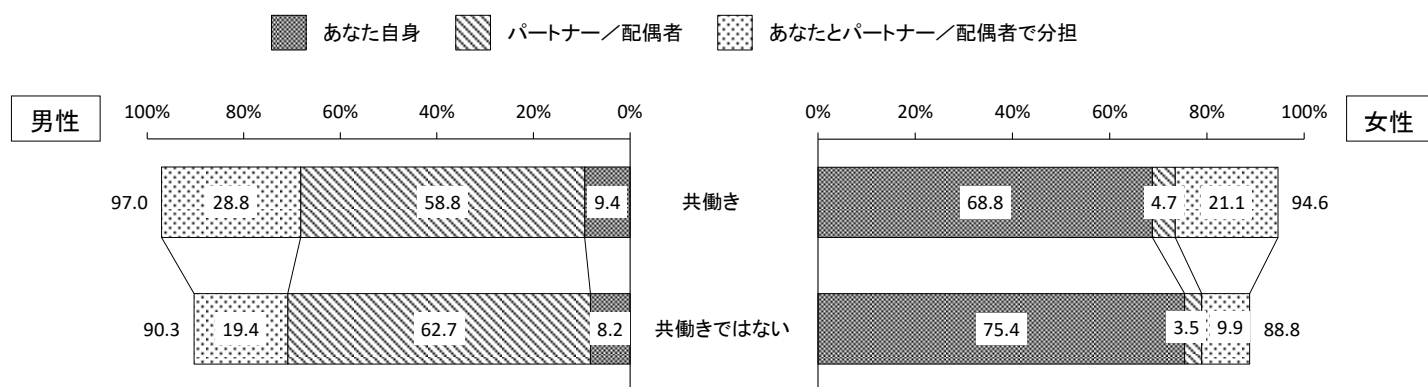
(4) 現実と理想の家事、行事参加等の役割分担

- 「調理」「ゴミ出し」等ほぼすべての項目で自身での分担が最多、理想では「調理」「ゴミ出し」等ほぼすべての項目では自身とパートナーで分担が最多

問12 あなたのご家庭では、日ごろ、以下のア～シのことがらを、どのように分担していますか。また、以下のア～シのことがらを、どのように分担するのが望ましいと思いますか（○はそれぞれ1つずつ）。

ウ 食事の用意（調理）【現実での役割分担】

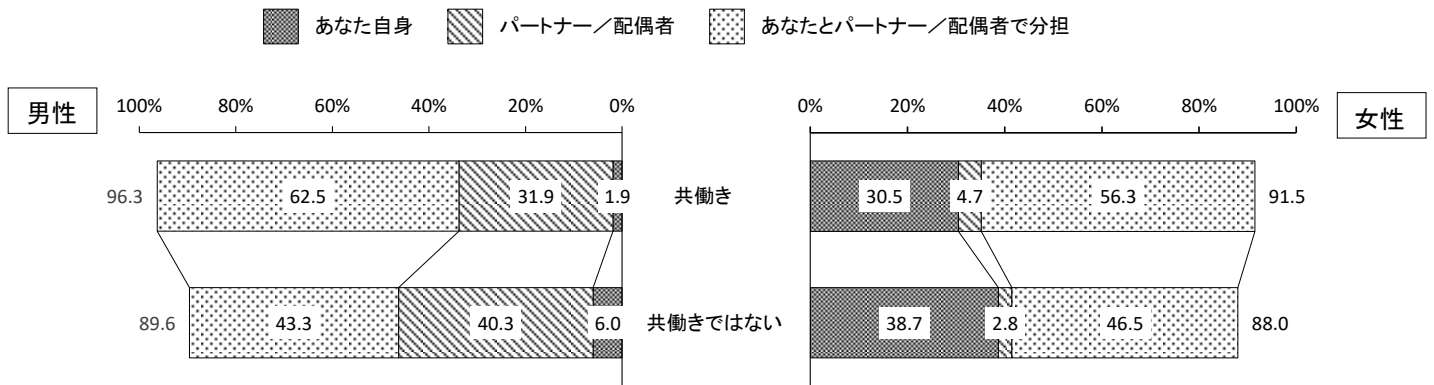
図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ウ 食事の用意（調理）（性別・共働きの有無別）



性別・共働きの有無別にみると、〈共働き〉の有無による大きな差はみられず、「あなた自身」は女性が6割台から7割台、「パートナー/配偶者」は男性が6割前後と多くなっている。「あなたとパートナー/配偶者で分担」では、男女を通じて〈共働き〉が〈共働きではない〉をそれぞれ10ポイント前後上回っている。

ウ 食事の用意（調理）【理想の役割分担】

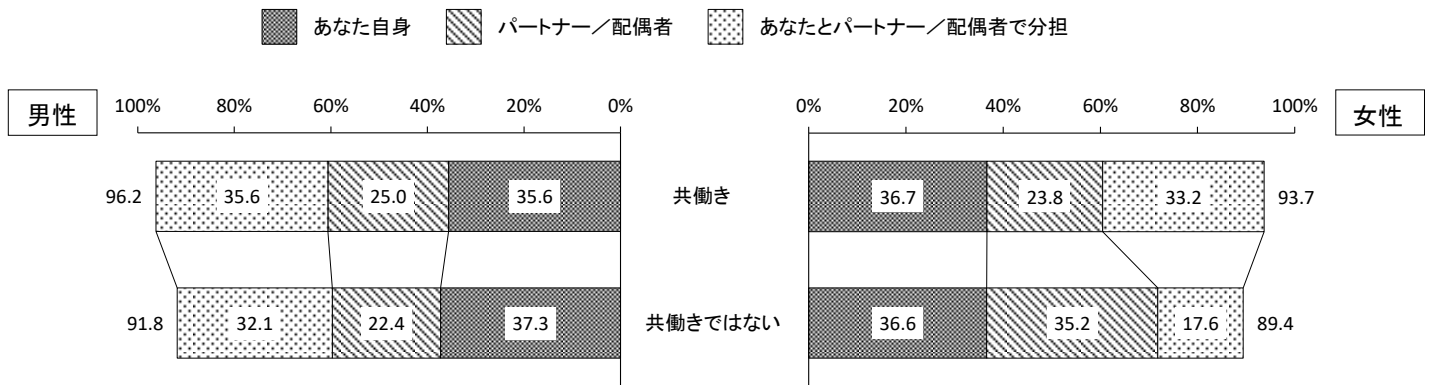
図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ウ 食事の用意（調理）（性別・共働きの有無別）



性別・共働きの有無別で見ると、「あなたとパートナー/配偶者で分担」の割合は、男女とも〈共働き〉が〈共働きではない〉よりも多く、その傾向は男性で強くなっている。

キ ごみ出し【現実での役割分担】

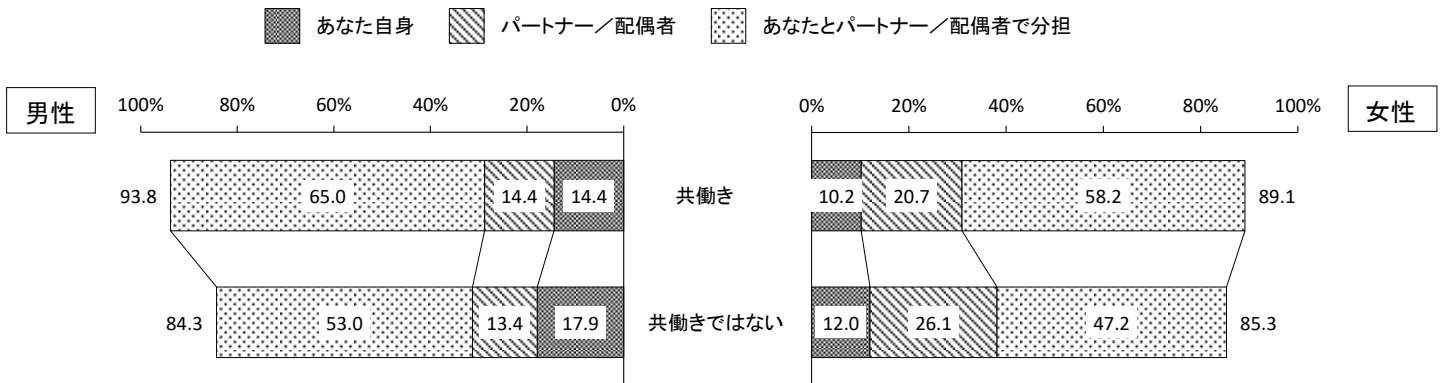
図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 キ ごみ出し（性別・共働きの有無別）



性別・共働きの有無別にみると、〈共働き〉では男女による大きな差はみられず、〈共働きではない〉は「あなたとパートナー/配偶者で分担」で、男性（32.1%）が、女性（17.6%）を14.5ポイント上回っている。

キ ごみ出し【理想の役割分担】

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 キ ごみ出し（性別・共働きの有無別）



性別・共働きの有無別で見ると、女性の「パートナー/配偶者」の割合は、〈共働きではない〉（26.1%）が〈共働き〉（20.7%）を5.4ポイント上回っている。

(5) 配偶者（またはパートナー）への不満点

- 男性は「思いどおりでないとすぐ怒る」が、女性では「言わないと家事・育児をしてくれない」「相手がやってくれるのが当たり前だと思っている」が最多

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。

問13 配偶者やパートナーの家事・育児で特に不満な点は何ですか（〇は3つまで）。

図表 配偶者（またはパートナー）への不満点（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
思いどおりでないとすぐ怒る	20.7	言わないと、家事・育児をしてくれない	30.6
ずっとスマホを見ている	17.2	ずっとスマホを見ている	22.2
家事・育児が雑である	10.3	家事・育児が雑である	20.8
言わないと、家事・育児をしてくれない	6.9	相手がやってくれるのが当たり前だと思っている	16.7
以下選択肢すべて	0.0	日頃、感謝してくれない	4.2
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
思いどおりでないとすぐ怒る	14.2	相手がやってくれるのが当たり前だと思っている	27.6
日頃、感謝してくれない	8.2	言わないと、家事・育児をしてくれない	21.6
家事・育児が雑である	7.5	ずっとスマホを見ている	14.1
相手がやってくれるのが当たり前だと思っている	6.7	家事・育児が雑である	12.1
ずっとスマホを見ている	6.0	日頃、感謝してくれない	12.1
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
思いどおりでないとすぐ怒る	11.8	相手がやってくれるのが当たり前だと思っている	35.0
相手がやってくれるのが当たり前だと思っている	7.4	言わないと、家事・育児をしてくれない	27.0
日頃、感謝してくれない	5.9	日頃、感謝してくれない	16.8
家事・育児が雑である	5.1	思いどおりでないとすぐ怒る	13.1
言わないと、家事・育児をしてくれない	2.9	家事・育児が雑である	7.3

性別・年代別で見ると、男性では「思いどおりでないとすぐ怒る」がすべての年代で最も多くなっている。一方、女性では30代以下では「言わないと、家事・育児をしてくれない」、40代以上では「相手がやってくれるのが当たり前だと思っている」が最も多くなっている。

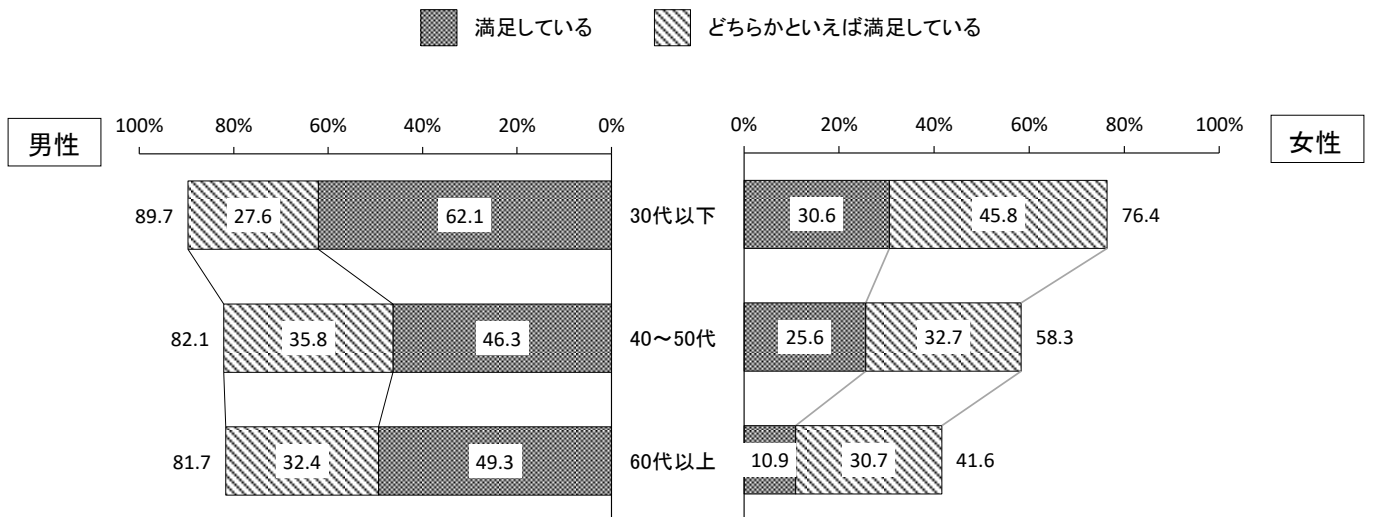
(6) 配偶者（またはパートナー）との役割分担状況の満足度

■ 満足している人は7割弱も、不満足は約2割

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。

問13-1 配偶者やパートナーとの現状の家事・育児の分担について、満足していますか（○は1つ）。

図表 配偶者（またはパートナー）との役割分担状況の満足度（性別・年代別）



性別・年代別で見ると、女性の【満足している】は、年代が高くなるほど割合が低くなる傾向にある。

(7) 配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うこと

■ 「夫婦でよく話し合い協力する」が全年代で最多

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。

問14 今後、家事・育児の分担を公平にするために特に何が重要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うこと（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
夫婦でよく話し合い、協力する	72.4	夫婦でよく話し合い、協力する	75.0
お互いが感謝の気持ちを伝える	69.0	お互いが感謝の気持ちを伝える	63.9
家事・育児代行などの外部サービスを利用する	24.1	在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築	47.2
在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築	20.7	最新家電や便利グッズ等を活用する	41.7
最新家電や便利グッズ等を活用する	13.8	家事・育児代行などの外部サービスを利用する	16.7
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
夫婦でよく話し合い、協力する	75.4	夫婦でよく話し合い、協力する	64.3
お互いが感謝の気持ちを伝える	67.9	お互いが感謝の気持ちを伝える	64.3
在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築	26.1	在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築	20.6
最新家電や便利グッズ等を活用する	19.4	最新家電や便利グッズ等を活用する	17.1
家事・育児代行などの外部サービスを利用する	9.7	家庭科の授業以外による教育現場での普及・啓発	16.1
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
夫婦でよく話し合い、協力する	70.6	夫婦でよく話し合い、協力する	60.6
お互いが感謝の気持ちを伝える	64.7	お互いが感謝の気持ちを伝える	60.6
在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築	17.6	最新家電や便利グッズ等を活用する	19.7
最新家電や便利グッズ等を活用する	11.8	在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築	16.8
家事・育児代行などの外部サービスを利用する	7.4	家庭科の授業以外による教育現場での普及・啓発	13.9

性別・年代別でみると、「夫婦でよく話し合い、協力する」では、男女共にすべての年代で最も多く、特に男性40～50代（75.4%）と女性30代以下（75.0%）では7割台半ばとなっている。

3 社会における男女共同参画の推進

(1) 分野別にみた男女の地位の平等感

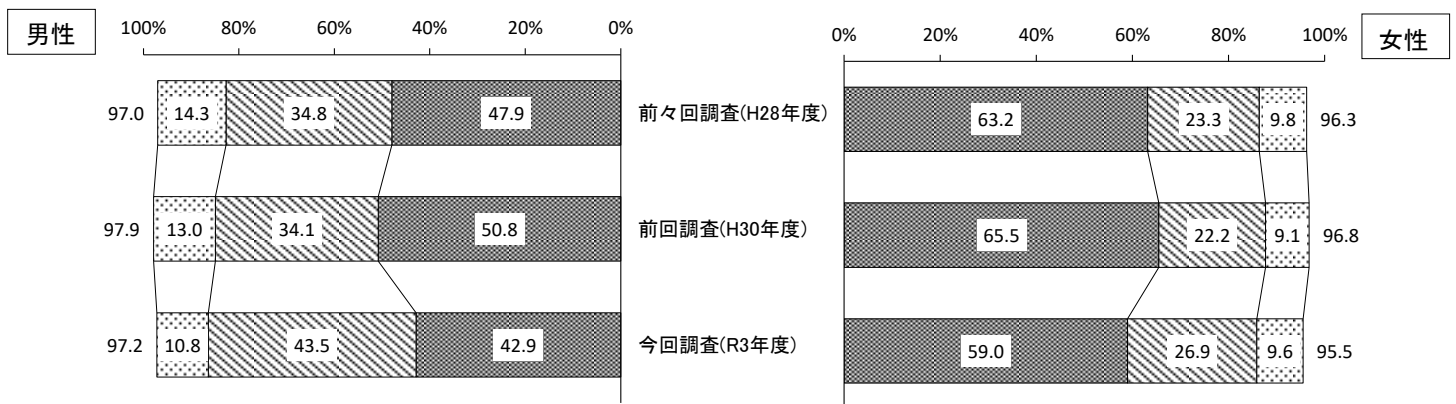
■ 「学校教育」以外のすべての場面で男性優遇が最多

問15 あなたは、次のア～キのような分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。また、「ク. 社会全体」としてはどうか（○はそれぞれ1つずつ）。

ア 家庭生活

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ア 家庭生活（経年比較）

■ 男性の方が優遇されている ▨ 平等 ▩ 女性の方が優遇されている

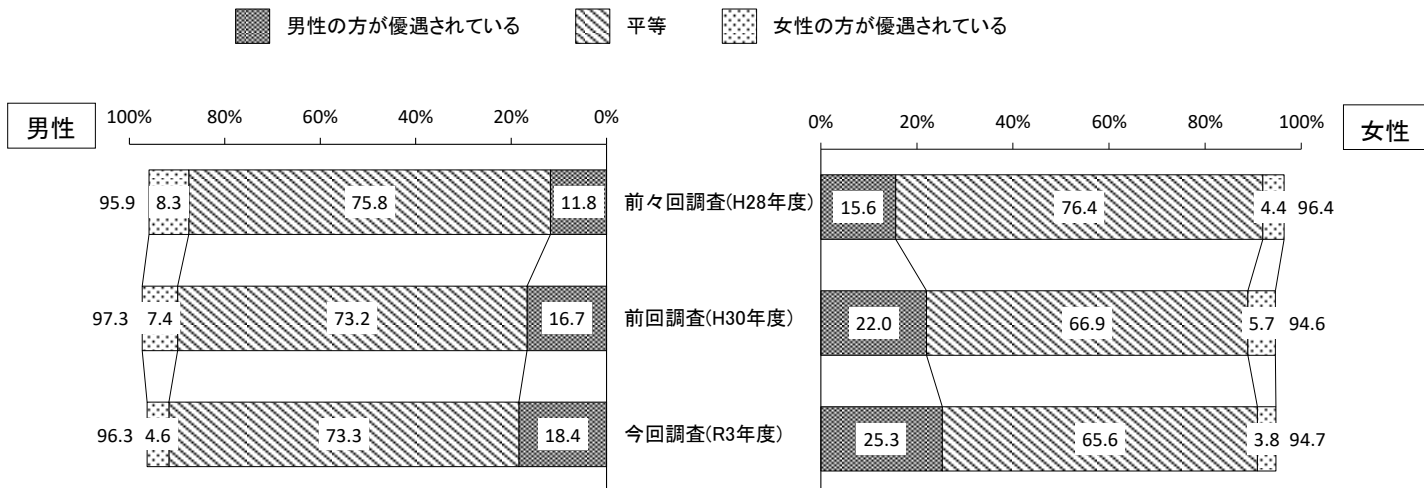


※【男性（女性）の方が優遇されている】は「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」を含む

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回42.9%、前回50.8%）では7.9ポイント減少している。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回59.0%、前回65.5%）は6.5ポイント減少している。

イ 学校教育

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 イ 学校教育（経年比較）

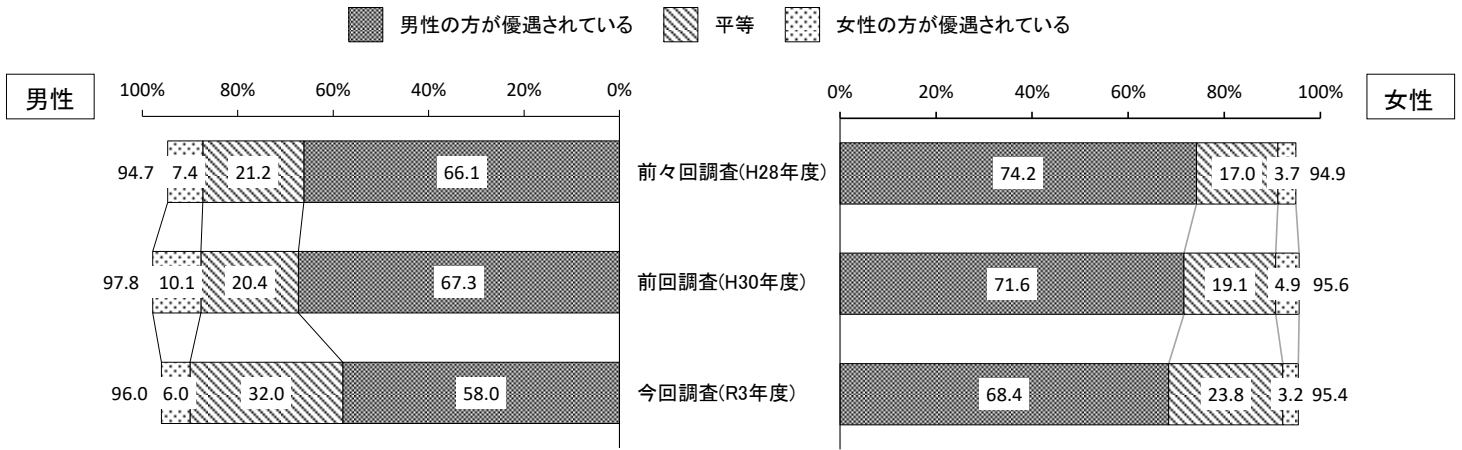


※【男性（女性）の方が優遇されている】は「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」を含む

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回18.4%、前回16.7%）は1.7ポイント増加している。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回25.3%、前回22.0%）は3.3ポイント増加している。

工 職 場

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 工 職 場（経年比較）

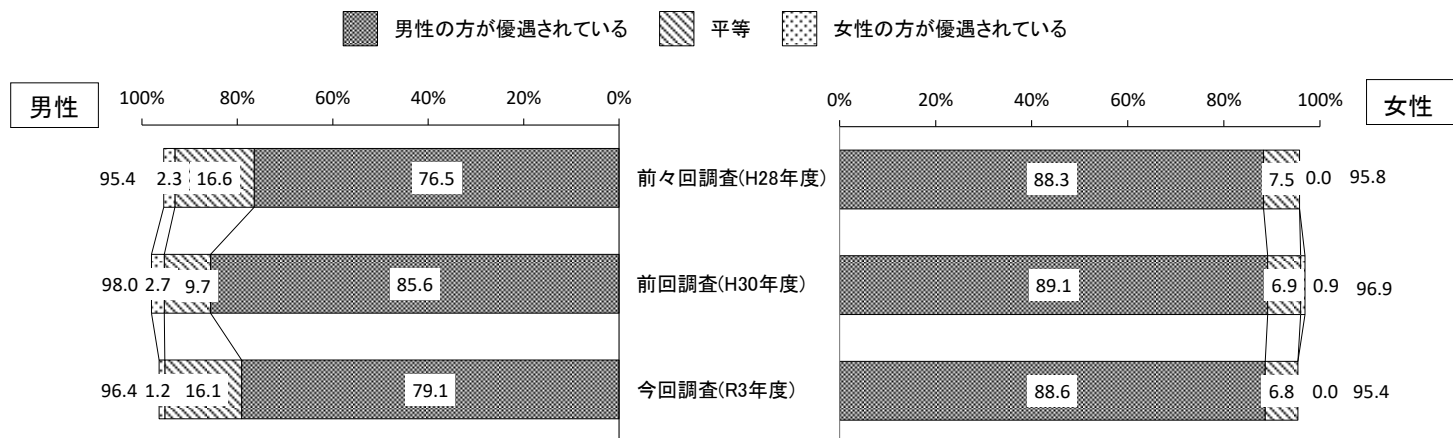


※【男性（女性）の方が優遇されている】は「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」を含む

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回58.0%、前回67.3%）は9.3ポイント減少している。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回68.4%、前回71.6%）は3.2ポイント減少している。

力 政治の場（政界）

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 力 政治の場（政界）（経年比較）

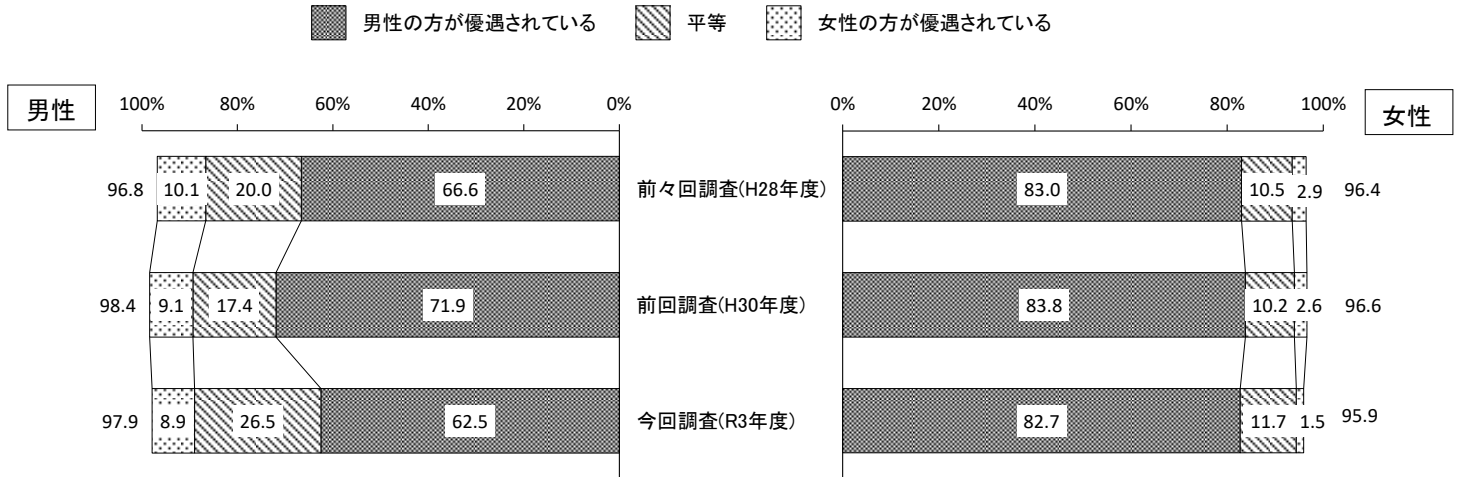


※【男性（女性）の方が優遇されている】は「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」を含む

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回79.1%、前回85.6%）は6.5ポイント減少している。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回88.6%、前回89.1%）は0.5ポイント減少している。

ク 社会全体として

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ク 社会全体として（経年比較）



※【男性（女性）の方が優遇されている】は「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」を含む

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回62.5%、前回71.9%）は9.4ポイント減少している。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】（今回82.7%、前回83.8%）では1.1ポイント減少している。

(2) 女性活躍推進のために特に区に期待すること

■ 「子育て環境の整備」が最多

すべての方にお聞きします。

問17 女性活躍推進のために、あなたが特に区に期待することは何ですか（〇は3つまで）。

図表 女性活躍推進のために特に区に期待すること（性別）

		(%)		
男性	上位5項目	女性	上位5項目	
	子育て環境（保育所等）を整備する	70.3	子育て環境（保育所等）を整備する	55.8
	女性の再就職の支援を行う	40.6	女性の再就職の支援を行う	47.9
	介護施設を整備する	37.6	介護施設を整備する	42.6
	区が率先して女性の活躍に取り組む	26.7	区が率先して女性の活躍に取り組む	21.2
	子育て支援サービスや相談窓口を充実させる	24.4	ワーク・ライフ・バランスを啓発する	20.3

性別で見ると、男女ともに「子育て環境（保育所等）を整備する」（男性70.3%、女性55.8%）と「女性の再就職の支援を行う」（男性40.6%、女性47.9%）が、上位2項目にあげられている。

(3) 性別にとらわれない防災対策や避難所の運営で特に重要だと思うこと

■ 「プライバシーに配慮した避難所設備の設置」が最多

問19 あなたは性別にとらわれない防災対策や避難所の運営について、どのようなことが特に重要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 性別にとらわれない防災対策や避難所の運営で特に重要だと思うこと（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を設置する	67.1	プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を設置する	84.0
女性や子供に対する暴力を防ぐ対応策を講じる	36.6	女性や子供に対する暴力を防ぐ対応策を講じる	37.9
ホテルなどの民間設備の活用	32.9	避難所の管理責任者を、男女両方配置する	37.3
災害対応において、男女両方のリーダーを育成する	32.9	ホテルなどの民間設備の活用	27.2
避難所の管理責任者を、男女両方配置する	29.3	災害対応において、男女両方のリーダーを育成する	21.3
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を設置する	69.6	プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を設置する	70.6
ホテルなどの民間設備の活用	34.8	避難所の管理責任者を、男女両方配置する	41.3
女性や子供に対する暴力を防ぐ対応策を講じる	32.1	ホテルなどの民間設備の活用	36.4
避難所の管理責任者を、男女両方配置する	28.3	災害対応において、男女両方のリーダーを育成する	26.8
災害対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる	28.3	災害対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる	23.8
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を設置する	64.3	プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を設置する	68.4
災害対応において、男女両方のリーダーを育成する	41.1	ホテルなどの民間設備の活用	37.8
避難所の管理責任者を、男女両方配置する	40.5	避難所の管理責任者を、男女両方配置する	36.8
災害対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる	35.7	避難所での悩みに対応する相談窓口やプライバシーに配慮した相談窓口の設置	32.1
ホテルなどの民間設備の活用	29.2	災害対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる	28.0

性別・年代別で見ると、「プライバシーに配慮した、避難所設備(トイレや更衣室、休憩スペース等)を設置する」がすべての性別、年代で6割以上と多くなっている。特に30代以下の女性では最も84.0%と最も多くなっている。

(4) 男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れるべきこと

■ 「男女の別なく個性や能力を活かせる指導の充実」が最多

問22 あなたは、男女共同参画の推進に向けて学校教育の場では、特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか（〇は3つまで）。

図表 男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れるべきこと（性別）

男性 上位5項目		女性 上位5項目		(%)
男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実	47.7	男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実	55.5	
人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導	44.0	人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導	40.1	
男女平等に関する副教材を活用した指導	31.1	男女平等に関する副教材を活用した指導	31.1	
日常の学校生活の中での男女平等の実践	28.6	日常の学校生活の中での男女平等の実践	27.1	
セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習	22.4	自分および異性の性を尊重する意味での性教育の充実	23.6	

性別で見ると、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」（男性47.7%、女性55.5%）と「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導」（同44.0%、40.1%）は、男女共に上位2項目にあげられている。

4 DV・ハラスメントの防止対策

(1) DV・ハラスメント行為の被害経験

■ 被害行為では、人格否定等の精神的攻撃（パワハラ）が最多

問23 あなたは、以下のような行為を受けたことがありますか（○はいくつでも）。

図表 DV・ハラスメント行為の被害経験（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた	14.6	人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた	23.1
過大な要求をされた（時間内に不可能な仕事を押し付ける等）	14.6	自分が悪くないのに謝罪を要求された	14.8
自分が悪くないのに謝罪を要求された	14.6	無視された	13.6
名誉を傷つける行為を受けた	12.2	暴言を吐かれ、見下された	12.4
暴言を吐かれ、見下された	12.2	過大な要求をされた（時間内に不可能な仕事を押し付ける等）	10.7
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた	28.3	暴言を吐かれ、見下された	20.4
暴言を吐かれ、見下された	19.0	人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた	20.1
過大な要求をされた（時間内に不可能な仕事を押し付ける等）	14.7	無視された	16.4
名誉を傷つける行為を受けた	12.5	「女（男）のくせに」「女（男）なんだから」と差別的な表現をされた/ もしくは行動を強要された	13.8
無視された	12.5	名誉を傷つける行為を受けた	11.5
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた	11.3	人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた	16.1
暴言を吐かれ、見下された	9.5	暴言を吐かれ、見下された	13.5
過大な要求をされた（時間内に不可能な仕事を押し付ける等）	5.4	無視された	10.4
名誉を傷つける行為を受けた	5.4	「女（男）のくせに」「女（男）なんだから」と差別的な表現をされた/ もしくは行動を強要された	9.3
無視された	4.2	過大な要求をされた（時間内に不可能な仕事を押し付ける等）	8.3

性別・年代別でみると、「人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた」では、女性40～50代を除く全ての年代で多くなっている。特に男性40～50代（28.3%）では3割弱と最も多く、同年代女性（20.1%）と比べて8.2ポイント上回っている。女性40代以上では、『「女（男）のくせに」「女（男）なんだから」と差別的な表現をされた/ もしくは行動を強要された』が第4位にあがっている。

(2) DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先

■ 相談先は「親族」「友人」「職場」が多い

問23で「該当する行為を受けた」と回答した方のみにお聞きします。

問26 あなたが受けた暴力・ハラスメントについて、相談したことはありますか。また、配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについての公的相談機関として、知っているものはありますか（それぞれ〇はいくつでも）。

(1) 相談したことがある相談先

図表 DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
親族	22.9	親族	34.4
友人	20.0	友人	34.4
区の相談機関（※1）	5.7	職場	20.8
学校関係者	5.7	労働基準監督署・労働局	5.2
警察	2.9	学校関係者	5.2
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
友人	18.5	友人	28.1
職場	13.6	親族	23.7
親族	9.9	職場	17.0
区の相談機関（※1）	3.7	警察	7.4
区内にある関係公的機関（児童相談所、法テラス）	3.7	区の相談機関（※1）	4.4
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
警察	6.5	友人	17.3
友人	6.5	区の相談機関（※1）	11.1
職場	6.5	親族	11.1
区の相談機関（※1）	4.3	職場	8.6
親族	4.3	警察	7.4

※1 区の相談機関：男女参画プラザ女性相談、男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターげんき

性別・年代別で見ると、男性の60代以上を除くすべての年代で、親族や友人など身近な存在が第1位にあげられている。特に女性30代以下では、3割台半ばと最も多くなっている。

■ 「相談しても無駄だと思ったから」が最多

問26(1)で「13 相談したかったができなかった」「14 別に相談しようと思わなかった」と回答した方のみにお聞きします。

(2) 相談できなかった理由

図表 相談できなかった理由(性別・年代別)

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
相談しても無駄だと思ったから	33.3	相談しても無駄だと思ったから	44.1
自分が我慢すれば何とかなると思ったから	23.8	自分が我慢すれば何とかなると思ったから	29.4
どこに相談していいか分からなかったから	23.8	他人に打ち明けることに抵抗があったから	26.5
自分にも悪いところがあると思ったから	19.0	相談することで不利益な扱いをされると思ったから	20.6
他人に打ち明けることに抵抗があったから	14.3	どこに相談していいか分からなかったから	14.7
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
相談しても無駄だと思ったから	55.1	相談しても無駄だと思ったから	39.1
自分が我慢すれば何とかなると思ったから	49.0	自分が我慢すれば何とかなると思ったから	34.4
相談することで不利益な扱いをされると思ったから	22.4	他人に打ち明けることに抵抗があったから	17.2
相談できる人がいなかったから	18.4	相談できる人がいなかったから	15.6
どこに相談していいか分からなかったから	12.2	どこに相談していいか分からなかったから	12.5
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
自分が我慢すれば何とかなると思ったから	31.0	相談しても無駄だと思ったから	30.6
相談しても無駄だと思ったから	27.6	自分が我慢すれば何とかなると思ったから	27.8
相談できる人がいなかったから	17.2	他人に打ち明けることに抵抗があったから	22.2
相談することで不利益な扱いをされると思ったから	10.3	どこに相談していいか分からなかったから	13.9
どこに相談していいか分からなかったから	6.9	相談できる人がいなかったから	8.3

性別・年代別でみると、男女ともに「相談しても無駄だと思ったから」と「自分が我慢すれば何とかなると思ったから」が上位2項目にあげられている。また、女性では「相談しても無駄だと思ったから」という回答が、年代が低くなるほど高い傾向となっている。

■ 知っている相談先は「警察」が最多

(3) 配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについて、知っている公的相談機関

図表 配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについて、知っている公的相談機関（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
警察	48.6	警察	59.4
区の相談機関（※1）	17.1	区の相談機関（※1）	33.3
区内にある関係公的機関（児童相談所、法テラス）	11.4	国・都の相談機関（※2）	26.0
国・都の相談機関（※2）	8.6	区内にある関係公的機関（児童相談所、法テラス）	22.9
労働基準監督署・労働局	5.7	労働基準監督署・労働局	12.5
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
警察	50.6	警察	48.9
国・都の相談機関（※2）	29.6	区の相談機関（※1）	35.6
区の相談機関（※1）	27.2	国・都の相談機関（※2）	32.6
労働基準監督署・労働局	18.5	区内にある関係公的機関（児童相談所、法テラス）	17.8
区内にある関係公的機関（児童相談所、法テラス）	14.8	労働基準監督署・労働局	11.1
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
警察	41.3	警察	28.4
区の相談機関（※1）	26.1	区の相談機関（※1）	25.9
区内にある関係公的機関（児童相談所、法テラス）	15.2	国・都の相談機関（※2）	24.7
労働基準監督署・労働局	15.2	区内にある関係公的機関（児童相談所、法テラス）	7.4
国・都の相談機関（※2）	13.0	労働基準監督署・労働局	4.9

※1 区の相談機関：男女参画プラザ女性相談、男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターげんき

※2 国・都の相談機関：女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ

性別・年代別でみると、すべての年代が「警察」が最も多く、特に女性30代以下（59.4%）では約6割を占めている。「区の相談機関」は男性40～50代以外の全ての年代が「警察」に続き第2位にあげている。

(3) DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこと

■ 「家庭内におけるDV防止の意識啓発」が最多

問27 あなたは、配偶者、パートナー、家族又は交際相手などからの暴力を防止するために、今後どのようなことを特に充実すべきだと思いますか（〇は3つまで）。

図表 DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこと（性別・年代別）

		(%)
男性 30代以下 上位5項目		
家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	43.9	
加害者に対する厳正な対処	41.5	
性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備	40.2	
警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実	39.0	
教育現場などにおける若年層への啓発	20.7	
女性 30代以下 上位5項目		
性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備		59.2
家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発		46.7
加害者に対する厳正な対処		40.8
警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実		39.1
教育現場などにおける若年層への啓発		22.5
男性 40～50代 上位5項目		
警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実	48.4	
加害者に対する厳正な対処	46.7	
家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	44.0	
性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備	34.8	
離婚調停・訴訟への支援など、法的サポートの充実	13.6	
女性 40～50代 上位5項目		
家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発		45.7
性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備		37.2
警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実		34.9
加害者に対する厳正な対処		31.6
教育現場などにおける若年層への啓発		26.0
男性 60代以上 上位5項目		
家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	48.2	
警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実	40.5	
加害者に対する厳正な対処	32.1	
性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備	25.6	
教育現場などにおける若年層への啓発	20.2	
女性 60代以上 上位5項目		
家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発		50.8
性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備		32.6
警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実		32.1
加害者に対する厳正な対処		22.3
教育現場などにおける若年層への啓発		21.8

性別・年代別でみると、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」では、男性30代以下、男性60代以上、女性40代以上で最も多くなっている。また、「教育現場などにおける若年層の啓発」が男性40～50代を除くすべての年代で、第5位にあげられている。

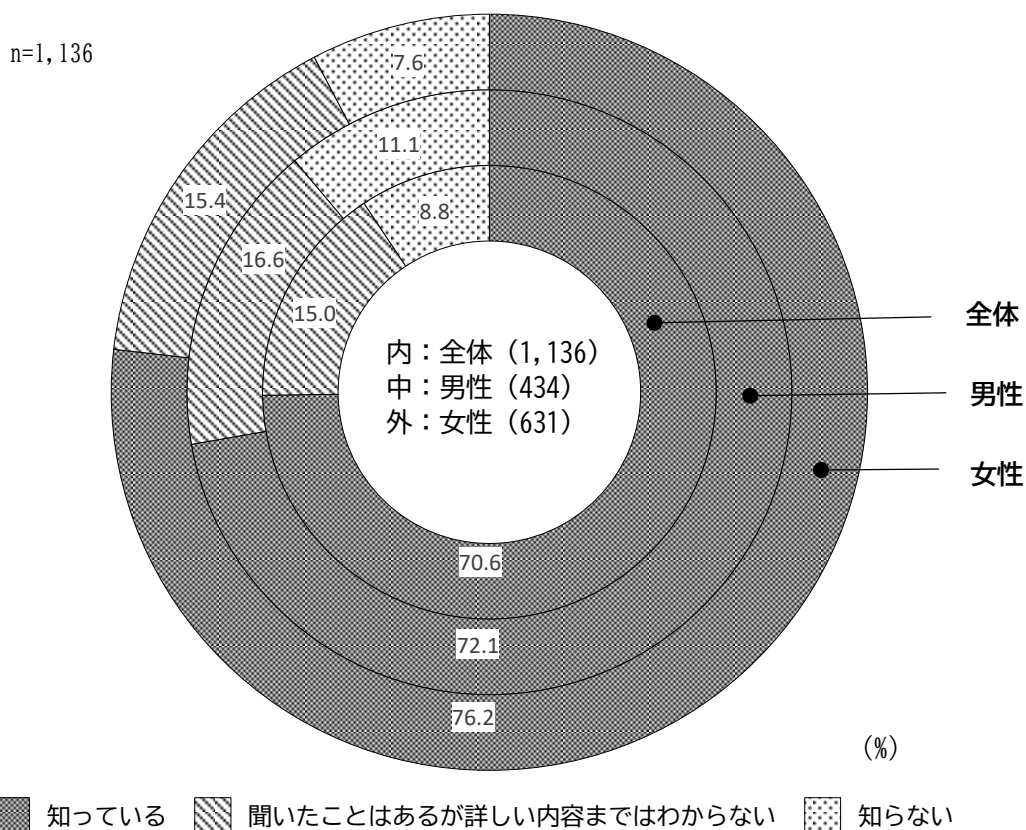
5 多様性の尊重と人権

(1) LGBTの認知度

■ 知っている人が7割を占め、知らない人は1割未満

問30 あなたは、LGBT(※)の言葉の意味を知っていますか(○は1つ)。

図表 LGBTの認知度(性別)



「LGBT」という言葉について、「知っている」回答者は70.6%と7割を占め、「聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない」(15.0%)は1割台半ば、「知らない」(8.8%)という回答者は1割弱である。

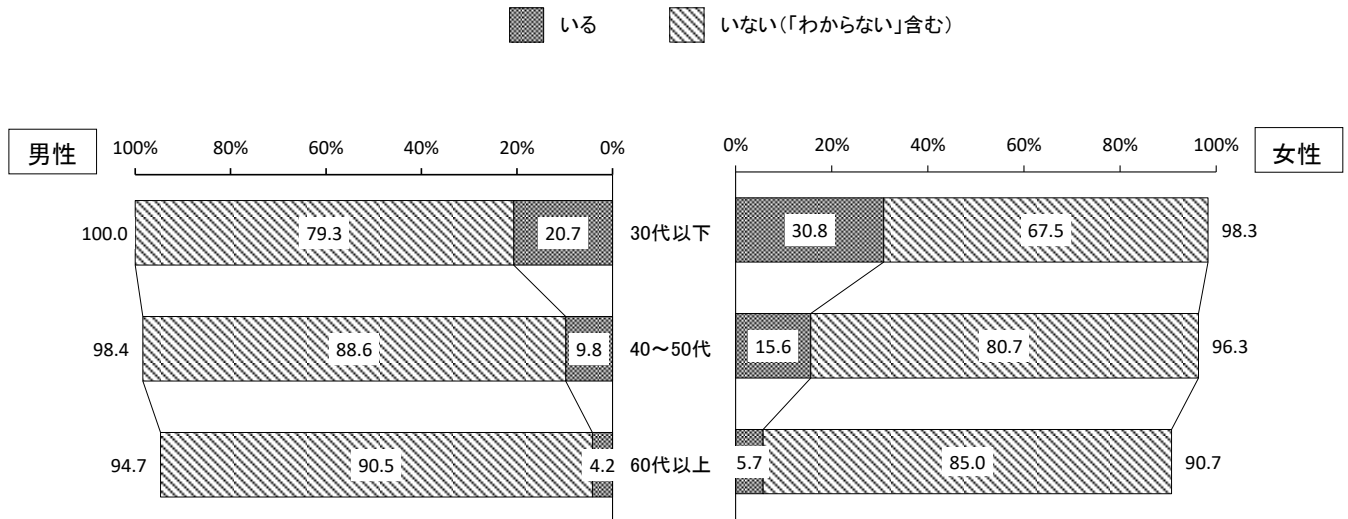
性別で見ると、男女共に「知っている」(男性72.1%、女性76.2%)という回答が7割を超えている。「知らない」では、男性11.1%、女性7.6%と、男性が女性を3.5ポイント上回っている。

(2) 周囲のLGBT等当事者

■ 「いない(わからない)」が8割弱を占めるも、周囲にいる人は1割を超える

問34 あなたの身近な人にLGBT等の人はいますか(○は1つ)。

図表 周囲のLGBT等当事者(性別・年代別)



性別・年代別で見ると、「いる」がどの年代も女性の方が多くなっている。また男女ともに30代以下で2~3割と他の年代に比べて多く、また年代が上がるにつれて「いる」の割合が低くなっている。

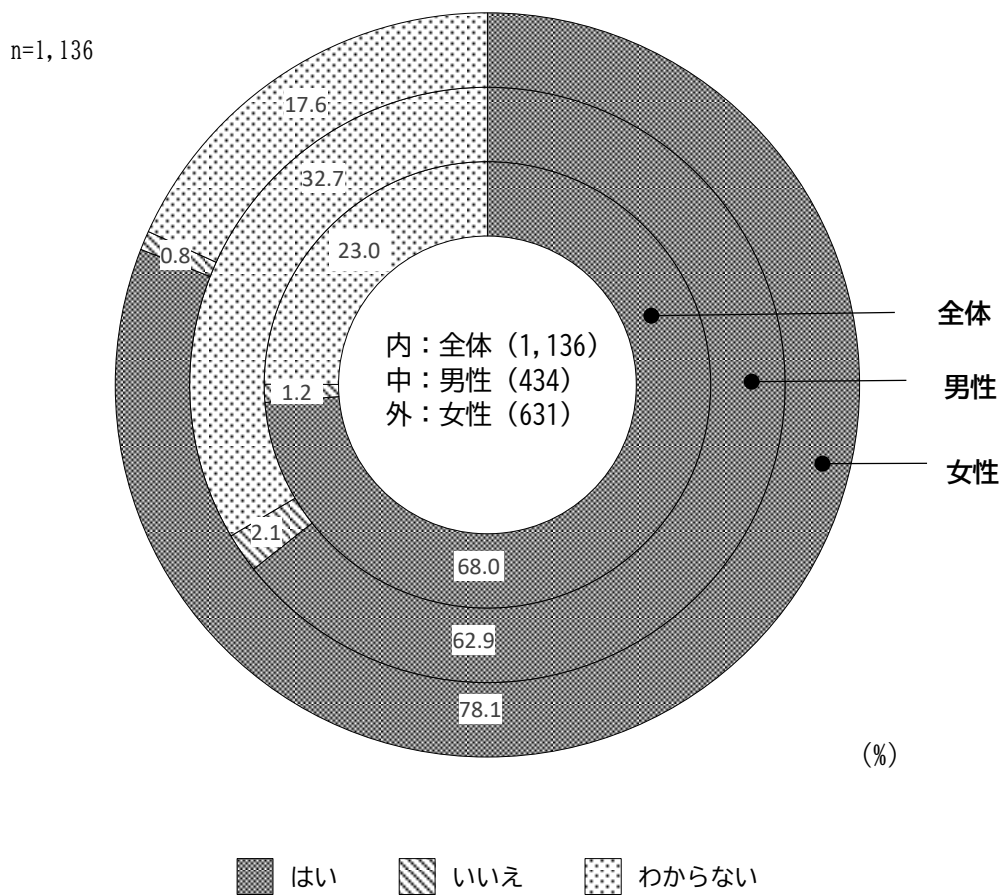
(3) LGBT等であることを打ち明けられた時の対応

■ 「理解する」「悩みを聞く」「今までどおりの距離感」と回答した人が6～7割を占める

問35 身近な人から、LGBT等であることを打ち明けられたとき、どうしますか（○はそれぞれ1つ）。

ア 理解をする

図表 LGBT等であることを打ち明けられた時の対応 ア 理解をする（性別）



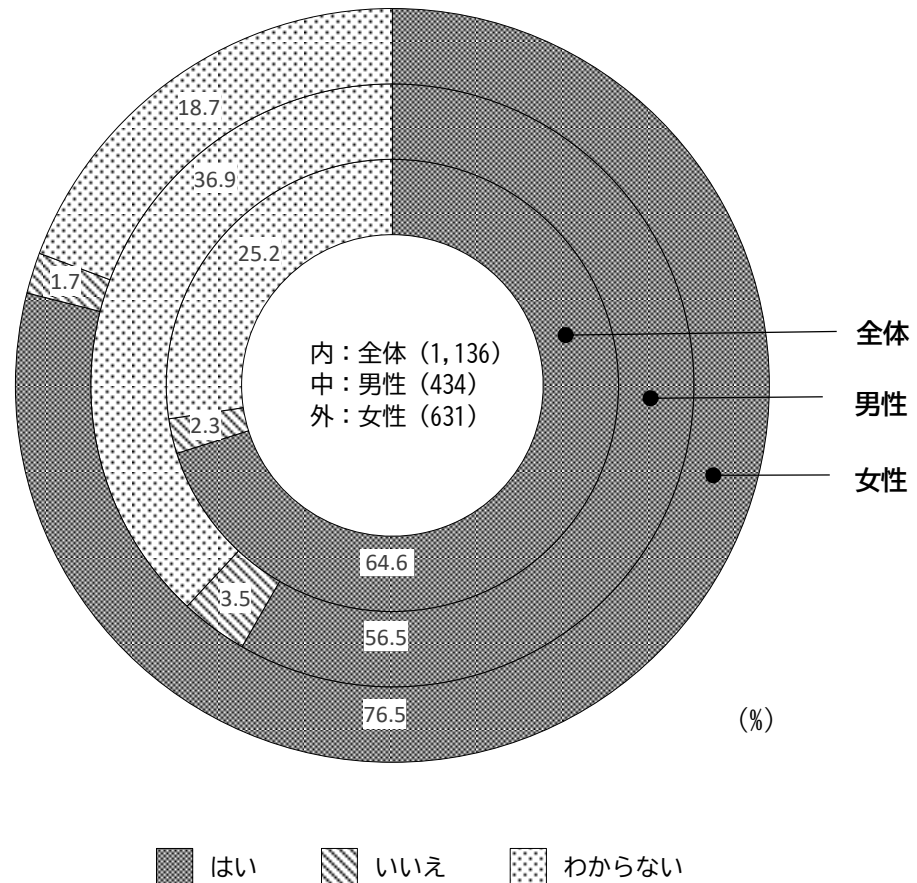
LGBT等であることを打ち明けられた時の対応として“理解をする”かをたずねたところ、「はい」という回答者は68.0%で7割弱を占め、「いいえ」という回答者はわずか1.2%、「わからない」という回答者は23.0%となっている。

性別でみると、「はい」という回答者は男性62.9%、女性78.1%と、女性が男性を15.2ポイント上回っている。また、「わからない」という回答者は男性（32.7%）が女性（17.6%）を15.1ポイント上回っている。

イ 悩みを聞く

図表 LGBT等であることを打ち明けられた時の対応 イ 悩みを聞く（性別）

n=1,136

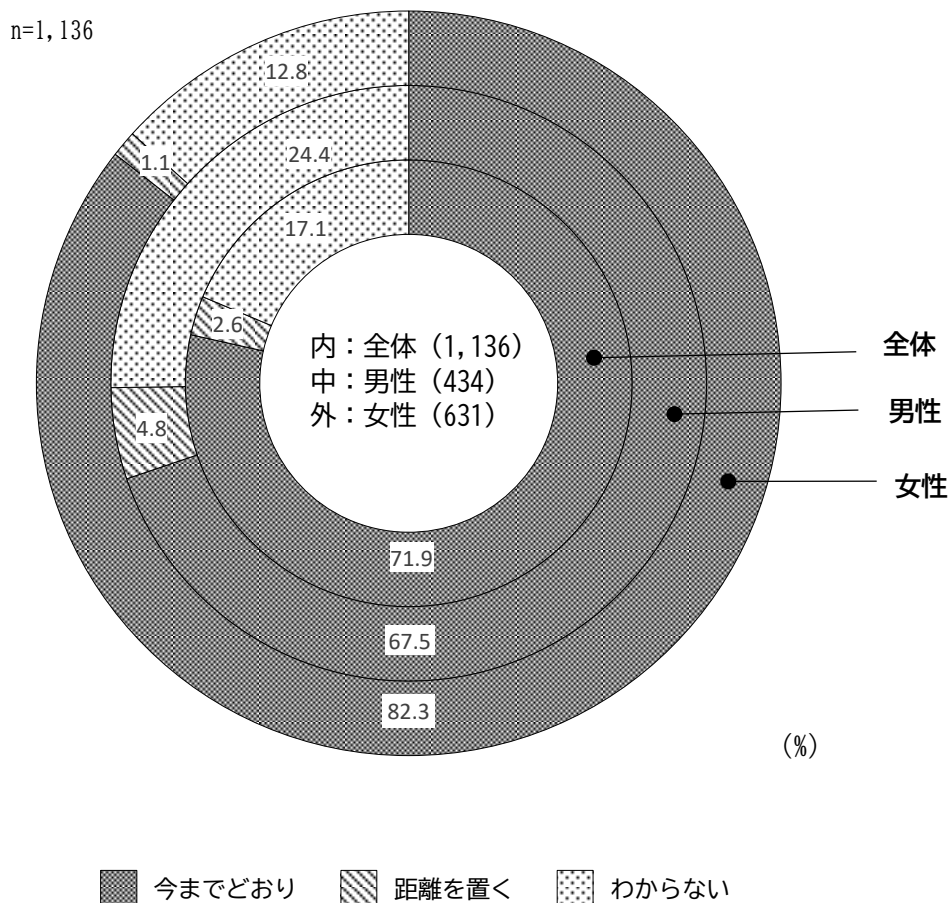


LGBT等であることを打ち明けられた時の対応として“悩みを聞く”かをたずねたところ、「はい」という回答者は64.6%で6割台半ばと多く、「いいえ」という回答者はわずか2.3%、「わからない」という回答者は25.2%となっている。

性別で見ると、「はい」という回答者は男性56.5%、女性76.5%と、女性が男性を20.0ポイント上回っている。また、「わからない」という回答者は男性（36.9%）が女性（18.7%）を18.2ポイント上回っている。

ウ 相手との距離

図表 LGBT等であることを打ち明けられた時の対応 ウ 相手との距離（性別）



LGBT等であることを打ち明けられた時の対応として“相手との距離感”については、「今までどおり」という回答者は71.9%で約7割を占め最も多く、「距離を置く」という回答者はわずか2.6%、「わからない」という回答者は17.1%となっている。

性別でみると、「今までどおり」という回答者は男性67.5%、女性82.3%と、女性が男性を14.8ポイント上回っている。また、「わからない」という回答者は男性（24.4%）が女性（12.8%）を11.6ポイント上回っている。

(4) LGBT等当事者が暮らしやすい社会づくりのために特に必要だと思うこと

■ 「周囲の人の理解や偏見・差別の解消」が最多

問36 LGBT等の人たちが暮らしやすい社会になるためには特に何が必要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 LGBT等当事者が暮らしやすい社会づくりのために特に必要だと思うこと（性別）

男性 上位5項目		女性 上位5項目		(%)
周囲の人の理解や偏見・差別の解消	60.6	周囲の人の理解や偏見・差別の解消	71.5	
社会制度の見直しや差別の解消（同性婚の法的整備、進学・就職・医療・住居・社会保障等の平等）	54.6	社会制度の見直しや差別の解消（同性婚の法的整備、進学・就職・医療・住居・社会保障等の平等）	61.6	
教育現場での普及・啓発	32.3	企業や学校現場、公共施設でのトイレや更衣室等の配慮や取組み	38.8	
企業や学校現場、公共施設でのトイレや更衣室等の配慮や取組み	30.9	教育現場での普及・啓発	38.4	
専門の相談機関	21.9	専門の相談機関	16.2	

性別で見ると、男女共に「周囲の人の理解や偏見・差別の解消」を第1位にあげており、男性60.6%、女性71.5%と、女性が男性を10.9ポイント上回っている。

(5) 性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験の有無

- 「ない(わからない)」が8割前後を占めるも、60代以上を除いて「ある」が1割を超える

問38 自身もしくは身近な人が「同性に好意を抱く」あるいは「性別と外見・仕草が異なること」等を理由に、いじめや差別を受けたり、または、見聞きしたことはありますか(〇は1つ)。

図表 性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験の有無(性別・年代別)

		(%)	
男性 30代以下		女性 30代以下	
ない(「分からない」含む)	80.5	ない(「分からない」含む)	79.3
ある	18.3	ある	18.9
男性 40~50代		女性 40~50代	
ない(「分からない」含む)	85.3	ない(「分からない」含む)	82.2
ある	12.0	ある	11.9
男性 60代以上		女性 60代以上	
ない(「分からない」含む)	85.7	ない(「分からない」含む)	85.0
ある	6.5	ある	3.6

性別・年代別で見ると、「ない」という回答者は、すべての年代で8割前後と多くなっている。一方、「ある」という回答者は女性30代以下が最も多く、18.9%となっている。

(6) いじめを受けたり、見聞きした場面

■ 「学校（小学校・中学・高校・大学）」が60代以上を除いて最多

問38で「1 ある」と回答した方のみにお聞きします。
問38-1 それはどこでしたか（○はいくつでも）。

図表 いじめを受けたり、見聞きした場面（性別・年代別）

		(%)
男性 30代以下 上位5項目		
学校（小学校・中学・高校・大学）	80.0	
勤務先	33.3	
家庭	6.7	
地域	6.7	
公共・民間サービス	6.7	
女性 30代以下 上位5項目		
学校（小学校・中学・高校・大学）		90.6
勤務先		25.0
地域		15.6
家庭		6.3
公共・民間サービス		6.3
男性 40～50代 上位5項目		
学校（小学校・中学・高校・大学）	54.5	
地域	27.3	
勤務先	13.6	
公共・民間サービス	4.5	
家庭	0.0	
女性 40～50代 上位5項目		
学校（小学校・中学・高校・大学）		68.8
勤務先		34.4
地域		21.9
家庭		3.1
公共・民間サービス		3.1
男性 60代以上 上位5項目		
勤務先	45.5	
学校（小学校・中学・高校・大学）	36.4	
公共・民間サービス	18.2	
家庭	9.1	
地域	0.0	
女性 60代以上 上位5項目		
学校（小学校・中学・高校・大学）		42.9
地域		28.6
勤務先		14.3
家庭		0.0
公共・民間サービス		0.0

性別・年代別でみると、男性60代以上を除き、「学校（小学校・中学・高校・大学）」が第1位となっており、女性の30代以下が90.6%と最も多くなっている一方、年代が高くなるにつれて、割合が低くなっている。

(7) 女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、大切だと思うこと

- 「婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実」が男女ともにすべての年代で半数以上

問39 女性は、男性と異なる健康上の問題に直面することがあります。こうした問題の重要性について社会全体で認識し、理解を深める必要があります。あなたが、女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、特に大切だと思うことをお答えください（○は3つまで）。

図表 女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、大切だと思うこと（性別・年代別）

		(%)	
男性 30代以下 上位5項目		女性 30代以下 上位5項目	
性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	63.4	婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実	69.8
婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実	61.0	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	66.9
子どもの成長に応じた性教育	48.8	子どもの成長に応じた性教育	59.2
更年期についての情報提供・相談体制の充実	25.6	性感染症（カンジダ症、クラミジア感染症など）についての情報提供・相談体制	30.8
性感染症（カンジダ症、クラミジア感染症など）についての情報提供・相談体制	23.2	更年期についての情報提供・相談体制の充実	16.6
男性 40～50代 上位5項目		女性 40～50代 上位5項目	
婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実	62.0	婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実	66.9
性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	47.8	更年期についての情報提供・相談体制の充実	56.1
子どもの成長に応じた性教育	40.2	子どもの成長に応じた性教育	46.8
更年期についての情報提供・相談体制の充実	39.1	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	46.5
喫煙や薬物等、健康への害についての情報提供・相談体制の充実	17.9	喫煙や薬物等、健康への害についての情報提供・相談体制の充実	11.2
男性 60代以上 上位5項目		女性 60代以上 上位5項目	
性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	53.0	婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実	50.8
婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実	50.0	子どもの成長に応じた性教育	47.7
子どもの成長に応じた性教育	44.6	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	43.0
更年期についての情報提供・相談体制の充実	32.1	更年期についての情報提供・相談体制の充実	40.4
喫煙や薬物等、健康への害についての情報提供・相談体制の充実	19.0	喫煙や薬物等、健康への害についての情報提供・相談体制の充実	22.8

性別・年代別でみると、男性では「性や妊娠・出産についての情報提供相談体制の充実」が40～50代を除くすべての年代で最も多くなっている。一方、女性では「婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実」すべての年代で最も多くなっている。

(8) 生理用品の購入ができず困った経験

■ 困ったことはない人が8割を超えるも、いずれかの経験をしている人が1割強※

女性のみにお聞きします。

問40 昨今、経済的な理由等で生理用品を十分に手に入れることができない、いわゆる「生理の貧困」が問題となっています。実際に生理用品の購入ができず困ったことはありますか（○はいくつでも）。

図表 生理用品の購入ができず困った経験（性別・年代別）

	(%)
30代以下 上位5項目	
ナプキンを交換せずに使用し続けたり、トイレトペーパー等で代用せざるを得なかった	10.7
汚れることを気にしてしまい、用事等を断るなど外出することをためらった	5.3
部活、サークル、趣味、自己啓発等、好きなことを制限しなければならずストレスが溜まった	5.3
学校や職場を休まざるを得なかった	3.0
生理用品を購入するため、食費等を削って捻出せざるを得ず、生活の質を落とさざるを得なかった	2.4
40～50代 上位5項目	
汚れることを気にしてしまい、用事等を断るなど外出することをためらった	5.2
部活、サークル、趣味、自己啓発等、好きなことを制限しなければならずストレスが溜まった	4.5
ナプキンを交換せずに使用し続けたり、トイレトペーパー等で代用せざるを得なかった	3.7
生理用品を購入するため、食費等を削って捻出せざるを得ず、生活の質を落とさざるを得なかった	2.6
学校や職場を休まざるを得なかった	1.1
60代以上 上位5項目	
汚れることを気にしてしまい、用事等を断るなど外出することをためらった	4.1
部活、サークル、趣味、自己啓発等、好きなことを制限しなければならずストレスが溜まった	3.1
生理用品を購入するため、食費等を削って捻出せざるを得ず、生活の質を落とさざるを得なかった	3.1
ナプキンを交換せずに使用し続けたり、トイレトペーパー等で代用せざるを得なかった	2.6
学校や職場を休まざるを得なかった	0.5

※全体では、「困ったことがない」が82.6%、「いずれかの経験をしたことがある」が13.0%

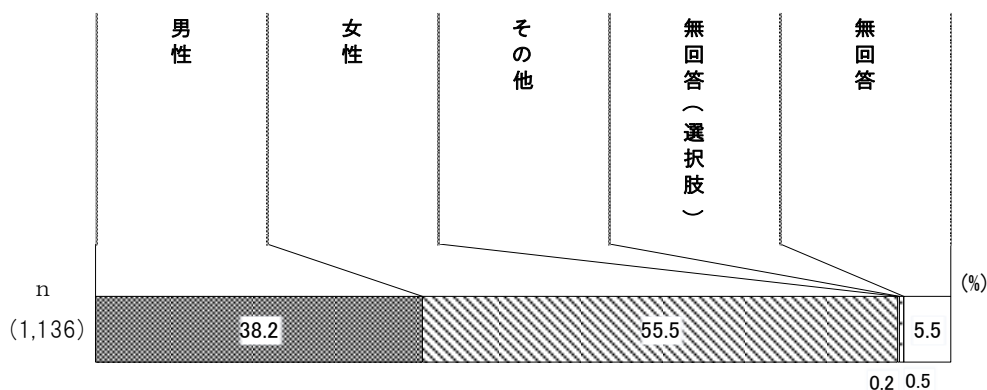
年代別でみると、女性30代以下では「ナプキンを交換せずに使用し続けたり、トイレトペーパー等で代用せざるを得なかった」（10.7%）、「汚れることを気にしてしまい、用事等を断るなど外出することをためらった」が40～50代では5.2%、60代以上は4.1%と最も多くなっている。

6 基本属性

(1) 性別

F1 あなたが自認している性別をお答えください（○は1つ）。

図表 性別（全体）

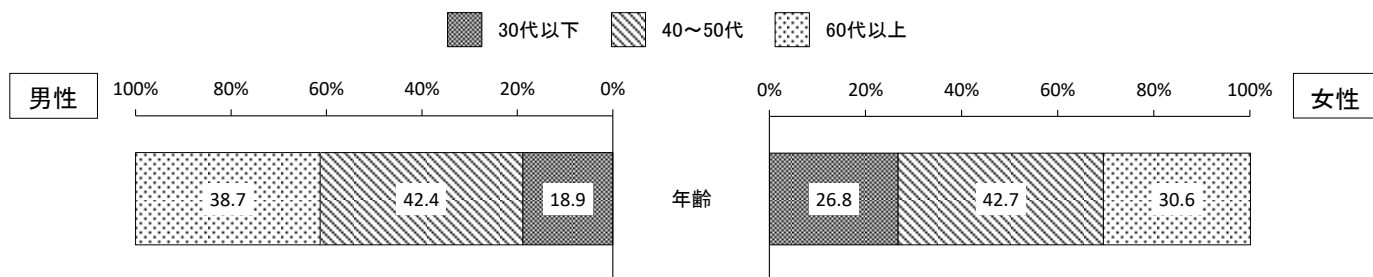


回答者が自認している性別の男女比は、「男性」38.2%、「女性」55.5%、「その他」0.2%となっている。

(2) 年齢

F2 あなたの現在の年齢は、おいくつですか（令和3年10月1日現在の年齢）。

図表 年齢（性別）

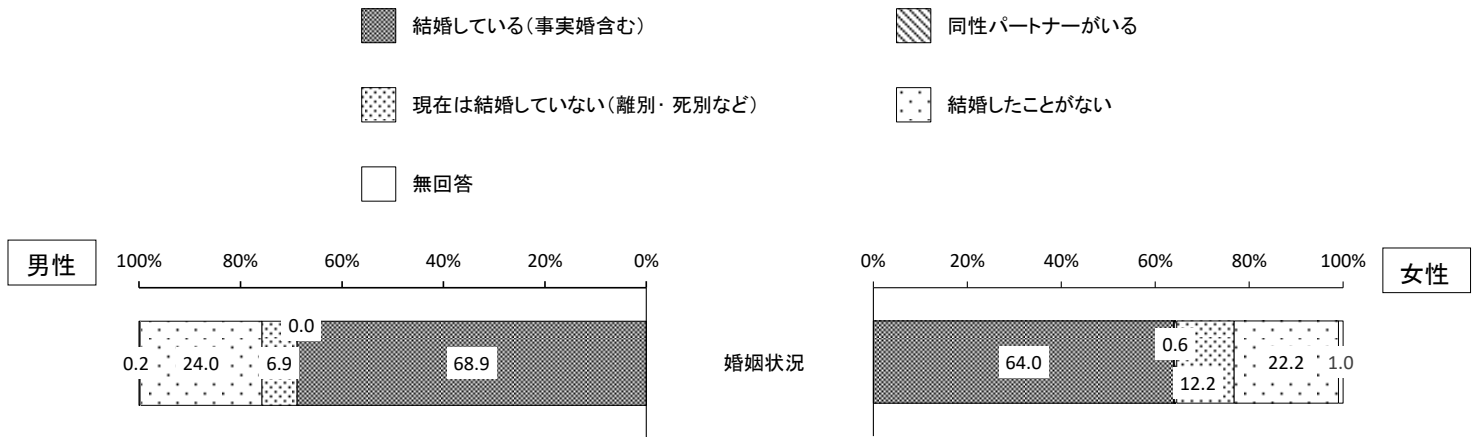


性別で見ると、男女ともに「40～50代」の回答者が最も多く、男性42.4%、女性42.7%となっている。次いで「60代以上」（男性38.7%、女性30.6%）が多い。

(3) 婚姻状況

F3 あなたの現在の婚姻状況（事実婚含む）をお答えください（○は1つ）。

図表 婚姻状況（性別）



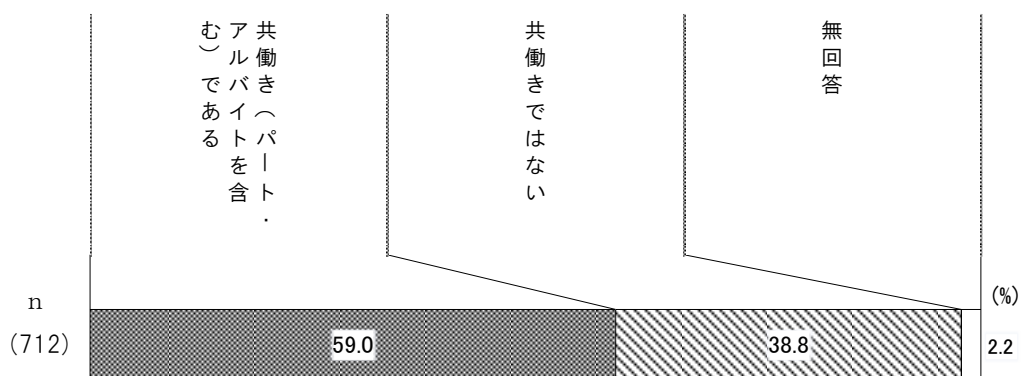
性別でみると、「現在は結婚していない（離別・死別など）」人は女性12.2%で、男性（6.9%）を5.3ポイント上回っている。

(4) 共働きの有無

F3で「1 結婚している」「2 同性パートナーがいる」と回答した方のみにお聞きします。

F3-1 あなたの現在の就労状況をお答えください（○は1つ）。

図表 共働きの有無（全体）



回答者の中で「共働き（パート・アルバイトを含む）である」人は59.0%、「共働きではない」人は38.8%となっている。

足立区男女共同参画に関する区民意識調査

報告書【概要版】

令和4年3月発行

発行：足立区 地域のちから推進部 多様性社会推進課
東京都足立区梅田7-33-1（L・ソフィア内）
電話 03-3880-5222

調査・分析：株式会社 サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
電話 03-3802-6711（代表）
